

企画政策部長の仕事宣言！ 進行管理表

企画政策部長 園木 一博

<p>[リープロの名称] 九州をリードするまちづくりプロジェクト</p> <p>[目標値] 新鳥栖駅利用者数 [H27年度の目標値] 9,590人/日</p> <p>(リープロの概要について記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州国際重粒子線がん治療センターの事業推進を図るとともに、メディカルツーリズムの推進を図ること で、九州をリードする取り組みの推進を図る。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	<p>資金収集活動については、中京県人会に参加しトップセールスを行うとともに、佐賀県、財団等と連携し、栄の国まつりに参加するなど、PR活動を推進した。また、がん先進医療助成事業について、3人の助成を行った。(累計14名)</p> <p>メディカルツーリズムについては、グランドクロス広域連携協議会の医療資源活用部会において現地調査等を行っている。</p>
	自己評価	<p>治療を開始して2年が経過し、患者数など当初計画よりも順調に推移している。また、資金収集活動については、市補助金の低減につながるよう引き続きの活動が必要である。</p>
	下半期への対応	<p>資金収集活動の推進を引き続き行なうとともに、がん先進医療助成事業については、適切な対応を行なう。また、メディカルツーリズムについては、自治体の役割等今後の協議が必要である。</p>
下半期	取組実績	<p>資金収集活動については、トップセールスによる在京企業訪問を行った。</p> <p>がん先進医療助成事業について、12月末現在で計7名の助成を行った。(累計18名) また、医療フォーラム(2/14)を後援し、治療実績等のPRを行った。メディカルツーリズムについては、部会を開催し、今後の方向性について協議を行った。</p>
	自己評価	<p>患者数など当初計画よりも順調に推移している。(12月末での累計1136名)</p> <p>資金収集活動については、引き続きの活動を実施している。</p> <p>PR活動については、県、財団と連携しながら推進していく必要がある。</p>
	目標値の達成状況	<p>治療患者数については、予定以上の状況であり、新鳥栖駅利用者数も順調に進捗している。</p>
	次年度への対応	<p>資金収集活動については、引き続きトップセールスによる活動を実施していく。メディカルツーリズムについては、慎重かつ適切に対応していく必要がある。</p>

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	3	9

* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期

がん治療センターの資金収集活動については、センターの着実な事業進捗を周知することと合わせ、あらゆる機会を通じて、これまでの協力者を含む幅広い関係者の一層の理解を求めること。

メディカルツーリズムについては、事業の進捗に応じて、県や市商工振興課と連携するなど、横断的な推進体制も検討すること。また、クロスロード地域やグランドクロス地域と連携し、交通結節機能を有する本地域が医療分野において果たせる役割について調査研究を進めること。

下半期

がん治療センターの資金収集活動については、着実な治療実績を踏まえ、引き続き県・財団と連携しつつ、トップセールスをはじめとする様々な手段を用い、あらゆる機会を捉え、幅広い関係者への働きかけと理解醸成に努めること。

メディカルツーリズムについては、同様の施設を有する地域の取り組みを参考としつつ、引き続きグランドクロス広域連携協議会医療資源活用部会で具体的なニーズ等の把握や今後の方向性について適切に協議を進めること。

企画政策部長の仕事宣言！ 進行管理表

企画政策部長 園木 一博

<p>[リープロの名称] 広域連携のまちづくりプロジェクト</p> <p>[目標値] 鳥栖・三養基地区との連携事業数 [H27年度の目標値] 5事業以上</p> <p style="padding-left: 40px;">クロスロード圏域との連携事業数 [H27年度の目標値] 10事業</p> <p>(リープロの概要について記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥栖市を含めたこの地域の一体的な発展のため、周辺自治体と広域連携について検討する。
--

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	鳥栖・三養基地域ビジョンにおいて現在実施している連携事業の着実な運用を図るとともに、クロスロード圏域でのサガン鳥栖の応援宣言に基づき、共同応援を実施した。
	自己評価	実施中の事業の着実な進捗と筑後川流域クロスロード地域ビジョンに基づく連携事業の検討が必要である。
	下半期への対応	筑後川流域クロスロード協議会においては、地方創生勉強会などが予定されており、構成団体へのフィードバックにつながるような取り組みが必要である。
下半期	取組実績	筑後川流域クロスロード地域ビジョンに基づき、各部会を開催している状況であり、その中で、市民協働の観点での各自治体の市民活動団体の紹介サイトを市HP上に公開した。
	自己評価	鳥栖・三養基地域ビジョンの目標値は既に達成しているが、新たな連携事業については進捗していない。筑後川流域クロスロード協議会については、着実に各事業が進捗している。
	目標値の達成状況	筑後川流域クロスロード協議会については、各自治体の連携のもと、事業実施が図られているものと考えている。
	次年度への対応	構成市町と協議を継続しながら、今後のこの地域の発展につながるような事業の模索を行っていく必要がある。特に国家戦略特区については、2市1町に事業者を含めた具体的な方策を早急にまとめる必要がある。

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	3	9

* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期
各ビジョンに基づく連携事業の着実な推進はもちろんのこと、地方創生や国家戦略特区などについても、新たな事業の制度構築に向けて連携を図ること。

下半期
筑後川流域クロスロード地域ビジョンに基づき地域の活力を生み出す連携事業の実現に引き続き取り組み、グランドクロス協議会における広域連携についても魅力ある連携事業の創出に向けた議論を深めるとともに、鳥栖・三養基地域ビジョンに基づく既存連携事業の着実な実施を図ること。また、こうした地域連携の実現にあたり、地方創生や国家戦略特区といった新たな連携枠組みを活用した取り組みについても具体的な検討を進めること。